



南町小だより

つよく かしく あたたく

平成30年 2月28日

校長 福田 俊彦

代表委員会の取り組みも学校生活を創る

校長 福田 俊彦

弥生の月を迎えます。通りかかった花屋の店先に桃の花を見ることができました。春はもうそこまでという思いがしました。平成29年度も残り僅かとなり、子供たちの姿からは進学、進級に向けた心構えを感じることができます。今年度も保護者の皆様、地域の皆様には、「みんなの子供をみんなではぐくむ」のもと、子供の見守りにご尽力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

さて、学校には、子供が子供をはぐくむ、子供が子供から学ぶ場面が多様にあります。今年度当初、代表委員会の子供を集め、どのような南町小学校を創っていきたいか、そのためにどのような年間のテーマとし、全校に伝えていくかを話し合いました。昨年度の経験があるからでしょう。子供たちは具体的な学校の姿を、自分たちの姿を思い描きながらテーマを決めてきました。保護者の皆さん、地域のみなさん、子供たちが決めたテーマを何度となく見たり、聞いたりしていただけているのではないのでしょうか。

平成29年度 代表委員会年間テーマ

「一人一人が支え合い、ありがとうの気持ちを大切に作る学校」

このテーマが、子供たちの学校生活を創っていく原動力となりました。子供が子供に発信していきます。子供が他の子供の頑張りを発見します。子供の声に子供が応えます。自分たちで決めたことだから最後までがんばろうとします。大人に言われてしなければならないことはもちろんあります。しかし、子供に任せられるところも創ろうとすれば創れます。そして、その経験が子供の成長をしっかりと支えます。子供にとって経験を通して得た、連帯感、所属感、達成感はとても大きな力になると考えています。

2月22日（木）の昼休み、校長室で今年度の代表委員会の活動を支えてきた6年生の話を聞きました。年間のテーマに書かれている学校を目指した取り組みについて、子供たちは今の思いを語りました。「学校の中に笑顔が増えた。」「協力、支え合いは、声かけで始まる。声かけの基本である挨拶が聞かれた。学校に来た方々への挨拶も多かった。」「一人一人が責任をもって自分の役割を果たそうとした。失敗しても友達の励ましがあった。」「自分たちで創り上げた運動会の経験が学芸会でも活かすことができた。下学年にその姿を見せることができた。」

私は校長として考えます。子供が創った生活は、新たな南町小学校の文化となります。その文化に新たな生活が積み重ねられていくことで文化が伝統となります。子供が創り出した南町小学校の伝統は、子供のよりよい集団、社会を創る意欲を高めていきます。他の役に立つ喜びをより広い社会の中で発揮していきます。今年度、南町小学校に対して、仲間に対して、自分に対して努力を積み重ねてきた一人一人の子供を誇りに感じています。来年度の代表委員会の活動にもご期待をください。